

文化のみち「二葉館」

社会調査実習「名古屋の観光まちづくり」の調査の一環として、10人の学生と文化のみち「二葉館」を訪問した。その日は34度を超える猛暑であり、汗をかきながらの散策であった。ここは指定管理者として、東京の会社が管理運営している。

突然の訪問であったが、名古屋の観光を調査する学生ということもあり、館長さんが時間をとって案内してくれた。一人で来たときには建物内部をぐるっと見て回っただけだったが、館長さんの丁寧な説明により、建物の歴史や風格を味わうことができた。



館長さんとの会話のなかで、地下鉄からのアクセスを話題にした。地下鉄の高岳で降り地上にあがって、どちらに向かうか迷った。昨年来たことがあるので、だいたいの検討はついたが、あまり自信がなかった。館長さんに「二葉館」への案内表示がないと言ったら、たしか出口付近に大きな看板があるはずだとの返事であった。学生に聞いても見ていないとのことであった。

猛暑で疲れたこともあり、文化の道の散策もそこそこに高岳に向かった。確かに駅近くの交差点あたりに、写真のような案内板があり、二葉館への矢印も表示されていた。でも駅に向かう方向からは「発見」できても、駅から上がった際には木の陰に隠れて見つからないのではないかと。学生も同意見であった。昨年のアンケートでも観光施設へのアクセスへの不満が多かった。改善を望むとともに、観光ルートバス



の本格運行などアクセス整備に期待したい。
(2007年8月5日 記)